

平成 26 年度中学校武道授業（なぎなた）指導法研究事業



平成 27 年 1 月 24 日（土）～25 日（日）の 2 日間、日本武道館大会議室及び第 2 小道場において、（公財）全日本なぎなた連盟推薦の研究者 4 名と日本武道館・連盟事務局各 2 名が参加し、平成 26 年度中学校武道授業（なぎなた）指導法研究事業〔主催=（公財）日本武道館、（公財）全日本なぎなた連盟、日本武道協会、後援=文部科学省〕が実施された。

この事業では、いままで現役中学生による模擬授業を行い、その中から問題を探り、研究協議し、よりよい指導法の模索をおこなってきたが、3 年前から正課体育で武道授業が始まり、実例が上がってきているため、それらを研究材料に事業を行うことになった。そのため会場を東京・日本武道館に移し、中学校でなぎなたの授業を行っている研究者 3 名の授業実践例等の報告と検討、中学校授業へのなぎなた採用実現に向けた取り組みに関する協議などを行った。

■ 1 日目（1 月 24 日）

開講式では、まず公益財団法人全日本なぎなた連盟 畠瀬美佐子専務理事が主催者挨拶に立ち、「研究者の先生方と忌憚のない意見を交わしながらこの研究事業を進めていきたい」と本事業への抱負を述べた。続いて、公益財団法人日本武



全日本なぎなた連盟
畠瀬美佐子 専務理事

道館 三藤 芳生 理事・事務局長より、「武道授業の実施時間が 10 時間と限られている。指導内容にしぼり込みが必要。武道が必修化されてから約 3 年間の経験



日本武道館
三藤芳生 理事・事務局長

を元に、各種目とも新たな指導内容の策定を探りつつある」と武道必修化の現状を伝え、さらに「現場の保健体育科教員がなぎなたを指導してみたいと思えるような環境設定が大事になってくる」と方向性の一端を示した。

続いて、研究協議に入った。安井みどり研究者の進行により、実際に体育授業を行っている研究者 3 名が、「なぎなたを授業に採用するようになったきっかけ」や、「授業で困っていること、問題点」などテーマを決めて逐次発言していった。自身なぎなた専門の教員ではない小倉尚美研究者の発表では、「学生時代、身近に地域のなぎなた教室があったことから、なぎなたの印象は必修化前から強かった。当校は、中高一貫の女子校であるため、女子ならではの武道を取り入れたいと思い、なぎなた採用を提案した」と発表すると、畠瀬専務理事より、「話をうかがっていると取り組んでいる先生方の熱意が大変重要であると感じます」との感想が述べられた。

続いて、なぎなた採用促進のアイデアを話し合った。

「なぎなたは、これまで女子が守ってきた武道。女子の中学生には、取り組みやすさがある。女子の授業に採用されるよう、女性の体育教員へ向けてアピールしていくのはどうか」「なぎなた専門の体育教員は少ない。外部指導者の活用を推進していくことが必要ではないか」「ダンスとコラボレーションしては」など、様々な提案が出された。

外部指導者については、「社会体育の指導者は、学校授業での時間配分や評価の方法など、現場に応じた指導方法がまだ理解できていない」「町道場に教えにいくような感覚で学校現場に入っていくてしまうようではいけない。学校授業で指導する上でのマナー・心得などを外部指導者へ向けて教える必要がある」「外部指導者を対象とした研修会、または指導書が必要ではないか」などの意見が出され、今後は外部指導者養成に向けた取り組みの推進が方針として明言された。



続いて、山中美知子研究者が、なぎなたの授業で実施している形の演武大会について、映像を使って紹介した。演武をしていない生徒たちは、チェックシートを用いて判定をし、生徒からは見学も勉強になるという声が聞かれるそうである。映像を見た研究者からは、「生徒たちから大きな声が出ており、楽しんで授業ができています」などの好評価の声が上がった。



最後に、畠瀬専務理事より「次回の学習指導要領の改訂で、現行の学習指導要領に掲載されている『なぎなた』の文言が残されるかどうかが重要である。広く認知されていくために、具体的に何

をしたらいいか考えていく必要がある」との発言があり、1日目の日程を終了した。

■ 2日目 (1月25日)

2日目は、会場を第2小道場に移し、1日目に続いて研究協議を行った。ここでは、各研究者より実際に取り入れている指導計画について発表があった。

午後は、これまでの話し合いで上がった、指導していく上での問題点や生徒への伝え方、言葉の使い方などを、実際になぎなたを使って、動作を交えながら検証していった。なぎなた経験のない体育教員に授業をしてもらう場合、どういう言葉を使ってもらうことが適切かなど、現場での指導の詳細についても話し合った。



閉講式の主催者挨拶では、畠瀬専務理事が「今回の研究事業で出た意見を連盟に持ち帰り、今後良い目標に向かって進んでいきたい」と抱負を語り、また、研究者講評では、安井研究者から「昨年度の研究事業で上がった課ではが今回の研究事業で克服できたことと、11月の全国研修会に向けた題材が出来たことが収穫だった」と述べ、研究事業の全日程を締めくくった。

◇研究者

安井 みどり (全日本なぎなた連盟 指導委員長)
小倉 尚美 (昇華学園中学校・高等学校 教諭)
山中 美智子 (河内長野市加賀田中学校 教諭)
今浦 千信 (汎愛高等学校 教諭)

◇全日本なぎなた連盟事務局

畠瀬 美佐子 (全日本なぎなた連盟 専務理事)
田室 美知子 (全日本なぎなた連盟 理事・事務局長)

◇日本武道館事務局

永嶋 信哉
今寺 直人 (順不同・敬称略)